第１章　新川地方拠点都市地域の整備の方針に関する事項

１．新川地方拠点都市地域の現況

１）自然状況

新川地域は、本州中央部・富山県の北東部の日本海沿岸部に位置し、面積が927.27ｋm^2の地域であり、富山県全土の21.8％を占めている。

東南方向に急峻な朝日岳、白馬岳、鹿島槍ヶ岳等を望み、黒部川、早月川、片貝川、小川などの大小多数の河川が本地域を通り日本海に注いでいる。地形的には、これら河川の流域に展開する平野部と中部山岳地帯に続く山岳、丘陵部でもって構成されているが、２市２町の限られた範囲で標高差が3,000ｍもあり、変化に富んだ地形が織りなす優れた眺望と海浜、山岳資源など豊かな観光資源に恵まれている。

また本地域の気候は、海岸から近距離に高山岳地帯のある地形の影響を受け冬には北西の季節風が発達し雪が降り、夏の前半には梅雨、後半には暑い日が続き、季節の変化が鮮明である。

２）土地利用

本地域の８割弱が国有林等の公有地で占められており、民有地はわずか２割程度となっている。

民有地の土地利用の状況は、平成16年で、農地が11,096haと全体の57.6％を占め、次いで山林4,137ha（21.5％）、宅地2,921ha（15.2％）、原野472ha（2.4％）、雑種地546ha（2.8％）、その他88ha（0.5％）となっており、農地が半分余りを占めている。

また、都市計画区域は、4市町合わせて約22,555haあり、そのうち用途地域は約1,520ha（6.7％）設定されている。用途地域別に見ると、住宅系土地利用（第一種低層住居専用地域、第一種・第二種中高層住居専用地域、第一種・第二種住居地域）が56.6％と最も多く、商業系土地利用（商業地域、近隣商業地域）が13.8％に対し、工業系の土地利用は、工業専用地域、工業地域、準工業地域を含め29.6％と商業系を大きく上回っている。

3）社会・経済状況

（1）人口

本地域の総人口は、平成12年の国勢調査結果によると、134,411人となっている。平成２年から平成12年にかけての人口の伸びをみると、平成２年が140,462人、平成７年では137,645人と、2.0%減少し、平成17年（速報値）では131,731人と、平成12年に比べて2.0%減少している。

この要因としては、少子化の進行もあるが、若年層の流出が最も大きな要素としてあげられる。

また、年齢別の人口割合の推移をみると、高齢化の傾向が相当早いペースで進行しており、平成12年における本地域の65歳以上の高齢者割合は、22.7%と平成７年（19.3%）に比べ、3.4ポイント増大し、県平均（22.0%）を上回っている。今後、こうした状況が一層進展するものと予想されており、高齢化対策の重要性も指摘されている。

（2）就業構造

本地域の産業別就業人口の割合（平成12年）を見ると、第１次産業が5.7%（県平均3.9%）、第２次産業44.9%（同38.5%）第3次産業では49.4%（同57.5%）となっており、産業構造は、第３次産業が中心になっている。県全体と比較してみると、第１次と第２次産業の割合が高く、サービス業等の第３次産業の割合が低く、製造業を中心とした構造になっている。

（3）産業

ア.農林業

本地域の農業は、黒部川を中心とした扇状地平野に広がる水田を基盤に、稲作を中心とした営農が展開されており、平成15年における農業算出額は、約148億円で、県全体の17.7%を占めている。生産額のうち77.4%は米で占めているが、地域的にチューリップ球根、りんご、スイカ等園芸及び畜産（酪農、肉牛、養豚）経営が行われ、地域特産物として好評を得ている。また、農家数（平成16年）は6,616戸で、減少傾向にあるが、兼業農家が依然92%をも占め、脆弱な体質となっている。

一方、林業は、地域の76.9%が森林で占めているものの、その過半数が天然林で、林業の生産性は極めて低い状況にある。このため、林道などの基盤整備とともに、協業化の推進などにより、林業の振興を図っていく必要がある。

イ.水産業

漁業では、古くからの遠洋漁業が衰退し、近年、沖合漁業や沿岸地域での定置網中心の漁業が盛んである。本地域の平成15年の総漁獲量（属人）は27,179ｔで、県全体（46,170ｔ）の半分以上を占めており、本県の漁業に占める位置づけは高い。

ウ.工業

本地域の工業は、豊富な水資源、労働力、工業用地など恵まれた立地条件を背景に、積極的な開発が進められ、新規企業の導入や関連企業の誘致などにより、着実な発展を遂げている。

平成15年における本地域の製造品出荷額は約4,459億円で、経済情勢が厳しいなか、不況で一旦製造品出荷額が下がっていたものの、近年は、10年前の平成5年（約4,430億円）と同水準まで回復してきている。業種では、電子部品、金属製品が主体をなしており、この２者で製造品出荷額全体の52％を占めている。また、市町別では、魚津市が42.6％、黒部市が38.9％、両市で地域全体の81％を占め、圏域の工業の中心を形成している。

このように、本地域の工業は、金属加工業、基礎資源型工業に特化している中で、地域内には、電子産業、非鉄金属加工業等高付加価値型の工業が立地してきているが、地域全体では、従業員29人以下の小規模の事業所が全体の９割を占めており、企業内容が零細で、装備率の低い企業が多い。

エ.商業

本地域における商業は、魚津市を中心とする近隣型商業と黒部市に代表される観光商業が特徴となっている。

平成16年における本地域の商店数（卸・小売計）は2,138店、従業員数10,245人、年間商品販売額では約1,983億円となっており、平成６年に比べて従業者数では371人（3.5％）、商店数では553店（20.1％）、商品販売額では851億円（30.0％）減少している。

本地域の商業は経営規模の零細な商店が多く（従業者４人以下の商店数71.7％（県平均68.8％））、１店当たりの販売額は9,275万円（同18,218万円）と、いずれも県平均を下回っており、店舗や経営の近代化が迫られている。また、本地域の商業は大部分を地域住民の消費に依存しているものの、モータリゼーションの進展や、ロードサイド店の進出等に伴い、購買活動が分散、拡大される傾向にある。

オ.観光

本地域には、日本一のＶ字峡として知られる黒部峡谷、代表的な温泉地である宇奈月温泉、風光明媚なヒスイ海岸、蜃気楼や埋没林など優れた、水準の高い観光資源に恵まれているとともに、田園風景や海岸景観等緑豊かな自然環境に恵まれている。また、伝統に培われた歴史的遺産や、新旧様々な祭りやイベントが地域全体にわたって分布している。

本地域における平成16年の観光客の入込数は、宇奈月温泉及び黒部峡谷のある黒部市へは年間約100万人、地域全体で約413万人となっており、県全体で占める割合は15%である。

■各種観光資源

	魚津市	黒部市	入善町	朝日町
自然景観・現象	・蜃気楼 ・僧ケ岳の雪絵	・黒部川扇状地 ・石田浜 ・黒部峡谷 ・宇奈月温泉	・黒部川扇状地	・日本一の標高差の町 ・ヒスイ海岸 ・小川温泉
名水	・てんこ水 ・魚津駅前の「うまい水」 ・片貝川、早月川の清流	・生地の共同洗い場 ・清水の里 ・十二貫野用水 ・駒洗い池 ・黒部川扇状地湧水群 ・黒部峡谷	・黒部川扇状地湧水群 ・沢杉	・七重滝
動植物	・ほたるいか群遊海面 ・埋没林 ・洞杉群生地	・日本一の雪椿自生地 ・日本最大の雷鳥、かもしか生息地 ・日本三大高山植物地帯	・杉沢の沢スギ ・世界最古の海底林	・日本最大の雷鳥、かもしか生息地 ・鹿島樹叢 ・白馬連山高山植物帯 ・護国寺シャクナゲ ・舟川べりの桜
歴史的建造物	・旧澤崎家住宅	・十二貫野用水 ・農村文化伝承館「山本家」	・しょうべのま遺跡	・不動堂遺跡 ・宮崎城址
祭り	・魚津祭り（たてもん祭り） ・戦国のろし祭り	・たいまつ祭り ・じんじんまつり ・えびす祭り ・愛本姫社祭礼 ・明日の稚児舞	・舟見七夕まつり ・入善ふるさと七夕まつり ・芦崎えびす祭り ・吉原えびす祭り ・墓ノ木たいまつ祭り ・観音祭り ・山神様祭り	・あさひまつり ・あさひ桜まつり ・鹿島神社稚児舞
イベント	・しんきろうマラソン ・全国大学女子軟式野球大会	・カーター記念黒部名水ロードレース大会 ・石田浜マリーンフェスタ ・黒部川水のコンサート＆フェスティバル ・新川育成牧場ファームフェア ・雪のカーニバル	・扇状地マラソン大会 ・舟見七夕マラソン大会 ・フラワーロード（チューリップイベント） ・深層水祭り	・全国ビーチボール競技大会 ・ヒスイカップビーチボール大会 ・海の日フェステバル

4）公共施設等の整備状況

（1）交通基盤

ア.道路

広域幹線道路としては、南西から北東にかけて北陸自動車道、国道８号が並走しており、周辺圏域との連絡道路として利用されている。また、国道８号バイパスの整備が進められている。

南北方向は、県道を軸に市町道がこれを補完する形で整備されており、また、新川広域営農団地農道等が走っている。

道路の整備水準は、平成16年度末でみると、国、県、市町道実延長1,802ｋｍのうち改良済延長1,395ｋｍ（77.4％）、舗装済延長1,713ｋｍ（95.1％）となっているなど、各道路とも整備水準は比較的高いものの、北陸新幹線新駅へのアクセス道路の整備や、地域の骨格をなす幹線道路の整備が望まれる。

イ.鉄道

鉄道については、南西から北東にかけてＪＲ北陸本線が走り、ＪＲと一部並走しながら富山市と宇奈月温泉を結ぶ富山地方鉄道が敷設され、各市町の交通輸送面の機軸となっている。

また、観光客を主体とした黒部峡谷鉄道が黒部市宇奈月温泉から棒平まで運行（冬期間運休）している。

また、北陸新幹線が、平成26年度末までの完成を目指し建設中であり、本地域内では新川地域の玄関口として新黒部駅（仮称）が設置されることとなっている。

ウ.バス

バスについては、利用者数の減少により不採算地区においては運行回数が削減または、廃止される傾向となっているが、近年では、まちづくりや環境問題の面から公共交通が見直されつつあり、各自治体においてコミュニティバスが運行され、通勤、通学等日常生活の重要な交通手段として利用されている。

エ.港湾

地方港湾魚津港は生活物資の流通港として、また新川地方の中核漁業基地として物流機能の強化や漁業関連施設の整備拡充を図るとともに蜃気楼ふ頭など地域の景観に配慮した整備が進められている。

（2）都市基盤

ア.上下水道

本地域における水道施設は、平成16年現在で、上水道2カ所、簡易水道47カ所、専用水道36カ所である。比較的水量・水質とも良好な地下水に恵まれている地域のため、水道普及率は、約76.4%と県平均（92.9%）を下回っている。

また、下水道については、平成16年現在で公共下水道、農村下水道、合併処理浄化槽等を含めた汚水処理人口普及率は約73.9%（県平均84.0%）となっている。近年の生活排水や工場排水の増大に対応するため、市街地においては公共下水道事業等、農村部においては特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業等で進行中である。

イ.公園・河川

本地域では、平成16年度現在で86カ所（面積208ha）の都市公園が設置されている。地域の人口1人当たりの都市公園面積は、16.39㎡と県民1人当たりの都市公園面積（13.30㎡）より若干上回っている。市町別にみると、魚津市13.13㎡、黒部市21.14㎡、入善町19.39㎡、朝日町8.02㎡となっているが、人口が集中している市街地の公園、緑地が不足している現状である。

このため、中部山岳国立公園及び朝日県立自然公園をはじめ、河川・海岸・山岳など恵まれた自然環境を活かした自然公園や、丘陵地、河川敷を利用した公園、緑地の整備が進められている。さらに、近年、住民の憩いの場、スポーツ活動の場、子供の遊び場などの量的拡大を目的に総合的な公園や運動公園等の整備が進められている。

また、国土保全の観点から河川改修事業、砂防事業、海岸事業等の各種事業に取り組んでいる。

ウ.住　宅

本地域における住宅事情としては、一般世帯の住宅の持ち家率は平成12年で85.1%（県平均79.3%）と高い比率を占め、全般的に住宅環境には恵まれているが、今後、新規企業の進出及び地場産業の発展、並びに核家族化への対応などから、公共住宅の整備改善や宅地造成等が計画されている。

エ.教育・文化

本地域には高等学校が７校（公立６、私立１）、公立養護学校が1校あり、平成17年で約3,300人の生徒が学んでいる。人口1,000人当たりの学校数をみると、県平均と同等のレベル（0.05校）にある。

文化施設のうちホール、展示施設、博物館についてみると、新川文化ホール、黒部市国際文化センター、宇奈月国際会館セレネ、入善町コスモホールなど、17施設が整備されているが、各施設の機能分担が課題となっている。

一方、公立の図書館は5館あり、市町それぞれにおいて整備されている。平成15年

における人口１人当たりの蔵書数は、4.37冊と、県平均（3.93冊）を若干上回っている状況である。

オ.医療・福祉

本地域における医療施設数は、平成16年現在で160施設あり、そのうち病院15、一般診療所87、歯科診療所58となっているが、人口1,000人当たりの医療施設数及び病院数を見ると、それぞれ1.21施設（県平均1.22）、0.11（同0.10）となっており、県全体の水準と同レベルにあるといえる。

また、福祉施設のうち高齢者の福祉施設は平成16年現在で、特別養護老人ホーム８、老人福祉センター６、デイサービスセンター24など、53施設が整備されている。人口1,000人当たりの福祉施設数を見ると、県全体の0.38施設に対し、本地域は0.40施設となっており、県の割合と同様であるが、各施設のネットワークの形成が課題となっている。